

波照間島の人骨調査

土 肥 直 美

1. はじめに

日本列島の最南端に位置する波照間島では約三千年前の下田原貝塚が発見されており、古くから人が住み着いていたことが確認されている。しかし、人骨についての情報が得られるのは、やっと12～13世紀になってからで、わずかに大泊浜貝塚等で発見された人骨の報告があるだけである。日本人の起源を解明するための重要な地域であるにもかかわらず、波照間島の人々の形質はほとんど分かっていないのが現状である。

今回、県立博物館の波照間島総合調査が企画され、願ってもない人骨調査の機会が与えられた。しかし、予備的に行った風葬墓調査では人骨の風化がひどく、形質的な調査は望めないのではないかとされた。ところが、その後、幸いなことに、庸原および毛原の二カ所において人骨調査を行うことができた。人骨の年代など不明な点も多いが、八重山では数少ない貴重な資料であるので、その概要を報告する。調査の経緯については別頁(P.137)を参照されたい。

1. 庸原第一墓

庸原第一墓人骨は土地改良地区内の岩陰で発見された風葬墓人骨で、四肢骨は比較的保存の良いものも見られたが、頭蓋骨はほとんど残っていなかった。調査は現地で行い、保存状態が比較的良く、情報量の多い大腿骨に焦点を絞って観察を行った。

表1は識別できた大腿骨の数を示しているが、表1から推定される被葬者の数は最少に見積もっても、男性が32名、女性が23名、計55名ということになる。しかし、保存状態が悪く識別できなかったものを含めると、実際にはもう少し多くなるはずである。墓の使用期間が分からないので墓の性格を推定することは難しいが、100年程度使われたとすれば、一世代当たり13～14人、200年使用されたとすれば、一世代当たり6～7人となり、いずれにしても数家族、あるいはいわゆる一族程度の規模で使われた墓ではないかと思われる。特記事項としては子供の骨がほとんど見られなかったことを記録しておきたい。

表1 庸原第一墓出土人骨

	男性	女性	計
右大腿骨	27	23	50
左大腿骨	32	21	53
推定個体数	32	23	55

II. 毛原第一墓

毛原第一墓は波照間港の西、ミシユク村跡近くに作られた仮の納骨施設で、周辺の砂丘から採砂の際に発見された人骨がビニール袋に入れて納められていた。人骨の保存状態も良好で詳しい分析に耐え得る願ってもない資料である。さらに、これらの人骨は地元のご理解によって琉球大学に借用し調査することが出来たので、今後の詳しい分析も可能である。

1) 資料

聞き取り調査によれば、採砂の際に出土した人骨はそのまま袋に入れたという。しかし、中には周辺の風葬墓から発見されたものが一部混入しているということだったので、明らかに風葬の人骨と思われるものを除外し、袋12個分を資料として借用した。これらの人骨は、いずれも保存状態が良好で、砂丘の埋葬人骨に特有の明るい色調のしっかりとした骨質を示した。さらに、骨の清掃作業の際に、いわゆる「星砂」が骨の中から検出されたことから推定すると、ほとんどの人骨は砂丘に埋葬されていたものと考えても良いように思われる。しかしながら、残念なことに、人骨の時代を特定できるような遺物はほとんど含まれておらず、わずかに外耳土器の小片が数点検出されただけである。これらの遺物の詳細については別頁（P. 137）を参照されたい。

一般に沖縄では、砂丘から発見された人骨は異常な死に方をした人であるか、あるいは漂着者や外国人のものだといわれることが多い。毛原人骨についても地元では外国人ではないかと言われていたようであるが、これらの情報を確認するためにも、人骨調査の意義は大きいと思われる。

2) 人骨の構成

まず、便宜的に、袋ごとに人骨を整理し観察したところ、同一の袋に納められている人骨はほとんどが対をなしており、かなりの確率で同一個体のものが含まれている可能性が示唆された。しかし、明らかに対をなしている骨が別々の袋から検出されるという例もあったため、基本的には個体識別は出来ないものとして、骨の部位ごとに整理することにした。表2～3と図1～6は人骨の主要部位を袋ごとに整理した結果である。このほか、椎骨、肋骨、前腕骨、手足の骨など、ほぼ全身骨が含まれていたが、個体識別が困難であるため、今回は主要部位の報告のみに留めた。

図1～6・表2～3から明らかなように、毛原第一墓に納められていた人骨には、男女・子供が含まれている。これらの情報をまとめると表4のようになり、情報量の多かった四肢骨の数から推定される最小個体数は、男性13体、女性10体、不明6体（若年1体、乳幼小児5体）、計29体となった。

埋葬人骨の構成から推定すると、毛原第一墓に納められていた人骨は、少なくとも難破船からの漂着者ではない。各年齢層が含まれており、むしろ一般的な埋葬遺跡から出土す

る人骨群の構成に近いのではないだろうか。土器片が人骨に伴うものであったかどうかは確かでないが、八重山のグスク時代前後の人骨が砂丘から発見されている例などを考慮すると、毛原第一墓の人骨もグスク時代前後のものである可能性を否定できないように思われる。

表2 出土人骨の構成 (頭蓋骨より)

①	男性	女性	不明
右側頭骨	1		
左側頭骨	1		
右上顎骨	1		
左上顎骨	1	1	
下顎骨	1		

③	男性	女性	不明
右側頭骨			1
左側頭骨			
右上顎骨			
左上顎骨			
下顎骨			

⑤	男性	女性	不明
右側頭骨			
左側頭骨		1	
右上顎骨		1	1
左上顎骨		2	1
下顎骨		2	1

⑦	男性	女性	不明
右側頭骨			
左側頭骨			
右上顎骨			
左上顎骨			
下顎骨			

⑨	男性	女性	不明
右側頭骨			1
左側頭骨			2
右上顎骨			
左上顎骨			
下顎骨	1		2

⑪	男性	女性	不明
右側頭骨	1	1	
左側頭骨	1	1	
右上顎骨	1	1	
左上顎骨	1	1	
下顎骨	1	1	1

②	男性	女性	不明
右側頭骨	1	2	
左側頭骨	1	2	
右上顎骨	1	1	
左上顎骨	1	1	
下顎骨	1	1	1

④	男性	女性	不明
右側頭骨			
左側頭骨	1		
右上顎骨	1		
左上顎骨	1		
下顎骨		1	

⑥	男性	女性	不明
右側頭骨			
左側頭骨		1	
右上顎骨		1	
左上顎骨		1	
下顎骨		1	1

⑧	男性	女性	不明
右側頭骨			
左側頭骨	1		
右上顎骨			
左上顎骨			
下顎骨			

⑩	男性	女性	不明
右側頭骨			
左側頭骨			
右上顎骨			
左上顎骨			
下顎骨			

⑫	男性	女性	不明
右側頭骨	1		2
左側頭骨	2	1	2
右上顎骨			1
左上顎骨			
下顎骨	1		3

表3 出土人骨の構成 (体部骨より)

①	男性	女性	不明
右上腕骨	1		
左上腕骨	2		
右寛骨	1		
左寛骨	1		
右大腿骨	1		
左大腿骨	1		
右脛骨			
左脛骨			

③	男性	女性	不明
右上腕骨			
左上腕骨			
右寛骨			
左寛骨			1
右大腿骨			1
左大腿骨			
右脛骨			
左脛骨			

⑤	男性	女性	不明
右上腕骨	2	1	
左上腕骨	1	1	
右寛骨		1	
左寛骨		1	
右大腿骨	2	1	
左大腿骨	2	1	
右脛骨	2	1	
左脛骨	2	1	

⑦	男性	女性	不明
右上腕骨			
左上腕骨			
右寛骨			
左寛骨			
右大腿骨			
左大腿骨			
右脛骨			
左脛骨			

⑨	男性	女性	不明
右上腕骨		3	1
左上腕骨		2	
右寛骨	1	2	1
左寛骨		3	
右大腿骨	1	2	1
左大腿骨	2	2	2
右脛骨	1		
左脛骨	1		1

⑪	男性	女性	不明
右上腕骨	1	1	1
左上腕骨	1		1
右寛骨		1	
左寛骨		1	
右大腿骨	2	1	1
左大腿骨	1	1	1
右脛骨		1	1
左脛骨	1	1	

②	男性	女性	不明
右上腕骨		2	
左上腕骨		2	
右寛骨		3	
左寛骨	1	2	
右大腿骨	1		
左大腿骨	1		
右脛骨	2	1	1
左脛骨	2	2	

④	男性	女性	不明
右上腕骨		1	
左上腕骨		1	
右寛骨		1	
左寛骨		1	1
右大腿骨		1	1
左大腿骨		1	
右脛骨		1	
左脛骨		1	

⑥	男性	女性	不明
右上腕骨		1	
左上腕骨		1	
右寛骨			
左寛骨		1	
右大腿骨		1	
左大腿骨	1	1	
右脛骨	1	1	
左脛骨		1	

⑧	男性	女性	不明
右上腕骨	1		
左上腕骨	1		
右寛骨	1		
左寛骨	1		
右大腿骨	1		
左大腿骨	2		
右脛骨	2		
左脛骨	2		1

⑩	男性	女性	不明
右上腕骨			
左上腕骨	1		
右寛骨	1	1	
左寛骨	1		
右大腿骨			
左大腿骨	1		
右脛骨			
左脛骨			

⑫	男性	女性	不明
右上腕骨	2	1	2
左上腕骨	2	1	2
右寛骨	1		
左寛骨	1		
右大腿骨	2	2	2
左大腿骨	2	2	2
右脛骨		1	2
左脛骨	1	1	2

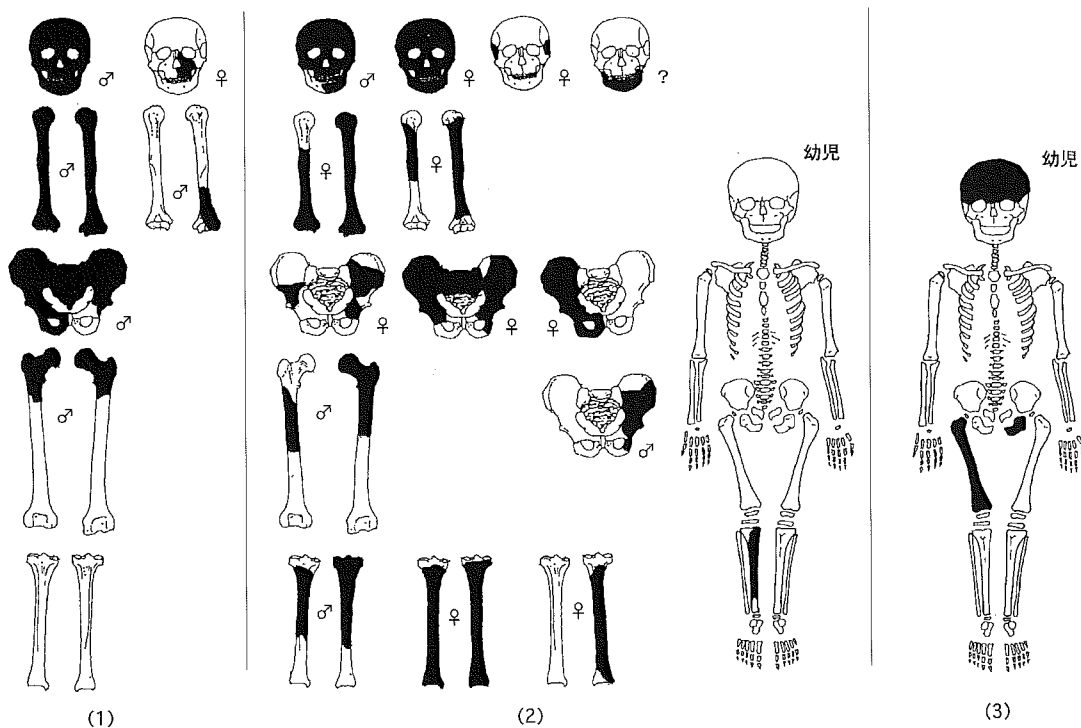


図1 人骨の出土部位

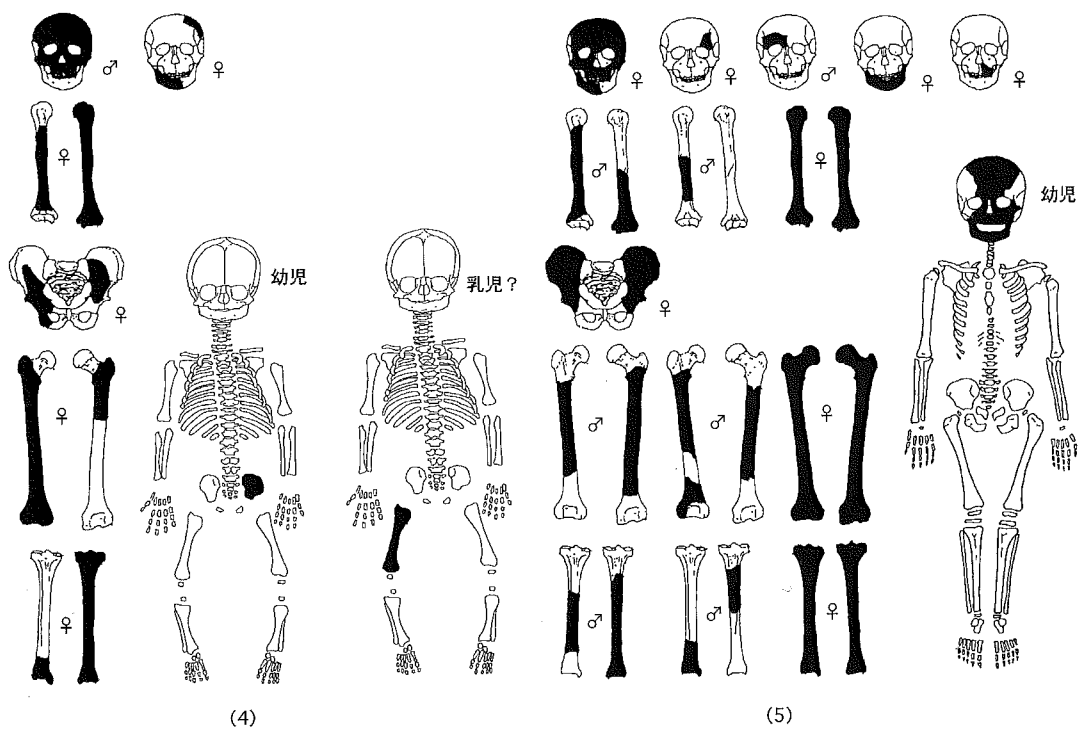


図2 人骨の出土部位

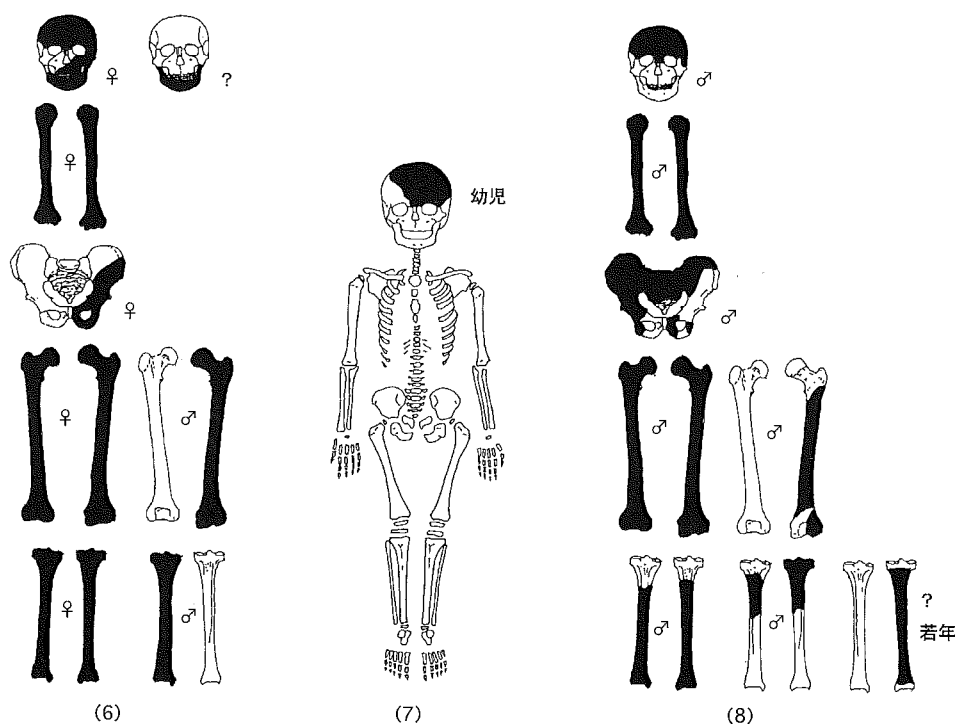


図3 人骨の出土部位

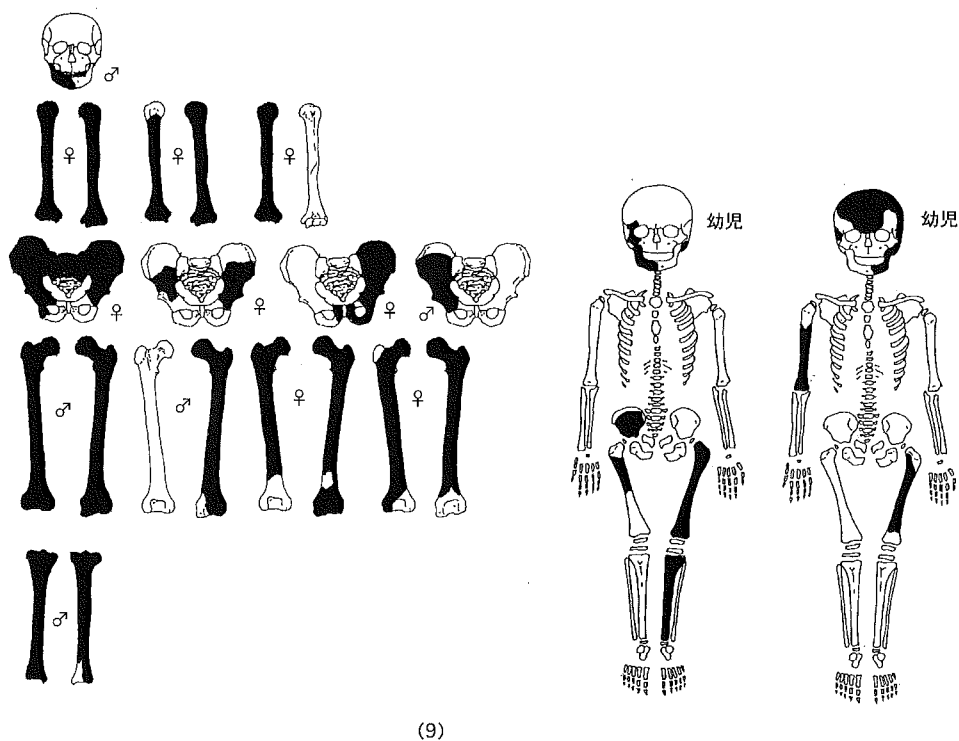


図4 人骨の出土部位

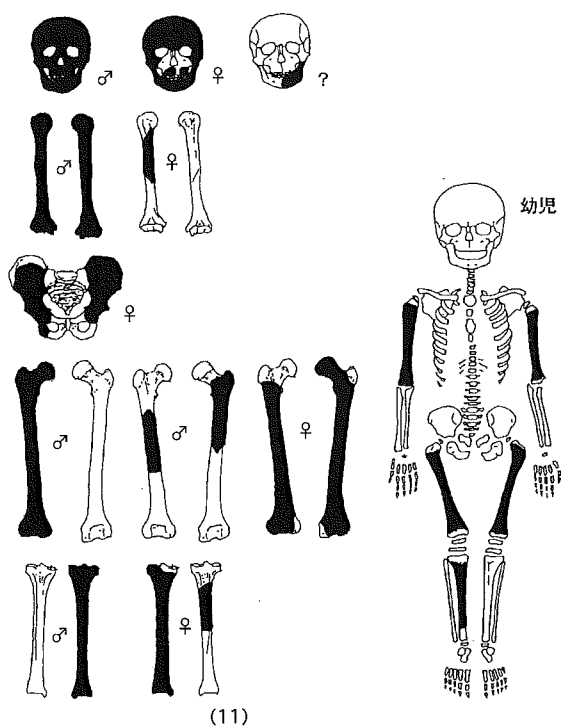
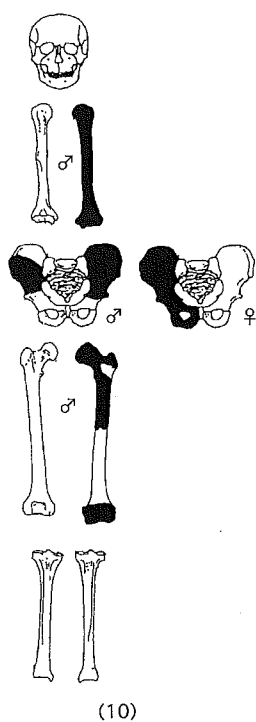


図5 人骨の出土部位

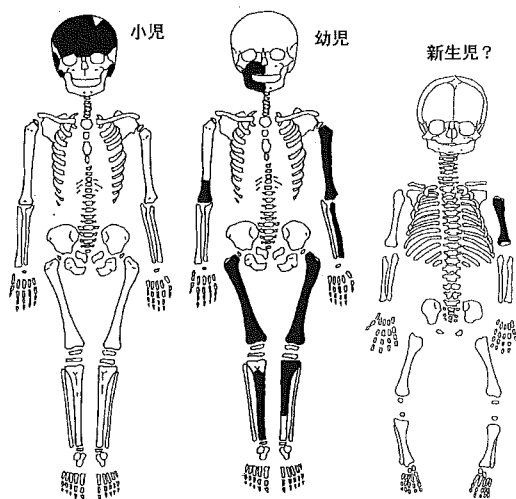
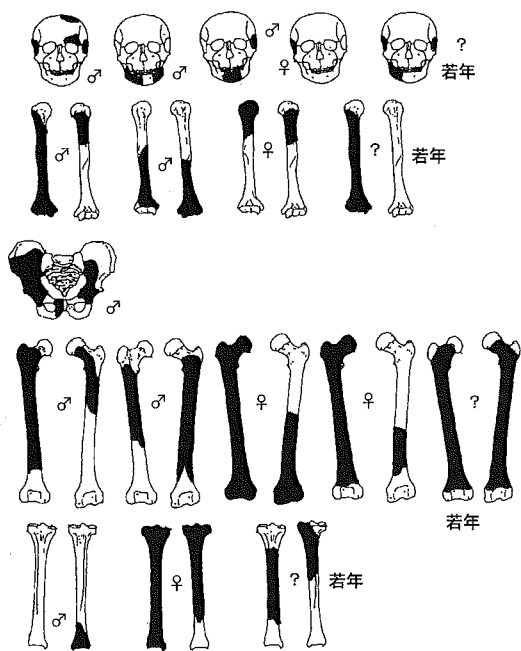


図6 人骨の出土部位

表4 出土人骨のまとめ

	男性	女性	不明成人	若年	乳幼小児
右側頭骨	4	3		1	3
左側頭骨	7	6		1	3
右上顎骨	4	4			2
左上顎骨	4	6			1
下顎骨	5	6	4	1	4
右上腕骨	7	10		1	3
左上腕骨	8	8		1	2
右寛骨	5	9			1
左寛骨	5	9			2
右大腿骨	10	8		1	5
左大腿骨	13	8		1	4
右脛骨	8	6		1	3
左脛骨	9	7		1	3
推定個体数	13	10	4	1	5

表5 頭蓋骨主要計測値 (男性)

	①-1	②-1	④	⑧	⑪	N	M	S.D.
1 頭蓋最大長	174	176	174	172	172	5	173.6	1.67
8 頭骨最大幅	141	140	137	140	143	5	140.2	2.17
9 最小前頭幅	95	97	92	92	93	5	93.8	2.17
17 バジオン・プレグマ高				134	131	2	132.5	
45 頬骨弓幅	140	136	129		138	4	135.8	4.79
46 中顔幅	100	105	103		108	4	104.0	3.37
48 上顔高	71	64	66		71	4	68.0	3.56
51 眼窩幅	47	41	41		44	4	43.3	2.87
52 眼窩高	36	31	32		33	4	33.0	2.16
54 鼻幅	28	25	29		26	4	27.0	1.83
55 鼻高	52	48	50		51	4	50.3	1.71
8/1 頭蓋長幅示数	81.0	79.5	78.7	81.4	83.1	5	80.7	1.72
17/1 頭蓋長高示数				77.9	76.2	2	77.1	
17/8 頭蓋幅高示数				95.7	91.6	2	93.7	
48/45 上顔示数(K)	52.9	49.3	52.7		53.6	4	52.1	1.92
52/51 眼窩示数 (左)	76.6	75.6	78.0		75.0	4	76.3	1.31
54/55 鼻示数	53.8	52.1	58.0		51.0	4	53.7	3.07
顔面平坦度								
Frontal chord	101.0	96.3	98.1	95.7	98.6	5	97.9	2.09
subtense	19.0	11.7	11.1	11.7	14.9	5	13.7	3.33
index	18.8	12.1	11.3	12.2	15.1	5	13.9	3.10
Simotic chord	7.3	9.2	8.9		9.2	4	8.7	0.91
subtense	2.4	2.8	2.6		3.8	4	2.9	0.62
index	32.9	30.4	29.2		41.3	4	33.5	5.46
Zygomaxillary chord	100.8	101.0	100.6		107.4	4	102.5	3.30
subtense	19.5	15.6	20.5		20.7	4	19.1	2.38
index	19.3	15.4	20.4		19.3	4	18.6	2.20

(mm)

表6 頭蓋骨主要計測値 (女性)

	②-2	⑤	⑪-2	⑩	N	M	S.D.
1 頭蓋最大長	165	178	164	171	4	169.5	6.45
8 頭骨最大幅	141		140	139	3	140.0	1.00
9 最小前頭幅	84	88	95	96	4	90.8	5.74
17 バジオン・プレグマ高	134				1	134.0	
45 頬骨弓幅	128	122		132	3	127.3	5.03
46 中顔幅	99	101		97	3	99.0	2.00
48 上顔高	63	62		63	3	62.7	0.58
51 眼窩幅	37			41	2	39.0	
52 眼窩高	32			31	2	31.5	
54 鼻幅	25				1	25.0	
55 鼻高	47	47		49	3	47.7	1.15
8/1 頭蓋長幅示数	85.5		85.4	81.3	3	84.1	2.40
17/1 頭蓋長高示数	81.2				1	81.2	
17/8 頭蓋幅高示数	95				1	95.0	
48/45 上顔示数(K)	51.6	53.3		49.2	3	51.4	2.06
52/51 眼窩示数 (左)	86.5			75.6	2	81.1	
54/55 鼻示数	53.2				1	53.2	
顔面平坦度							
Frontal chord	88.2	92.3	92.7	93.2	4	91.6	2.30
subtense	11.4	15.1	11.5	13.1	4	12.8	1.73
index	12.9	16.4	12.4	14.1	4	14.0	1.78
Simotic chord	6			8.7	2	7.4	
subtense	1			4.2	2	2.6	
index	16.7			48.3	2	32.5	
Zygomaxillary chord	98.5				1	98.5	
subtense	19.4				1	19.4	
index	19.7				1	19.7	

(mm)

3) 人骨所見

【頭蓋骨】

男性5体、女性4体の比較的保存良好な頭蓋骨が得られた。主要計測値は表5・6に示す通りであるが、全体に頑丈な印象を受ける。脳頭蓋の主要示数は、男性で80.7 (長幅示数)、77.1 (長高示数)、93.7 (幅高示数)、女性で84.1 (長幅示数)、81.2 (長高示数)、95.0 (幅高示数) となり、いずれも短頭、高頭、中頭の傾向を示している。短頭傾向は沖縄の先史時代人に見られる特徴であるが、全体のサイズが大きい点では異なっている。顔面の特徴はかなり変異に富んでおり、特に男性の高径 (上顔高、眼窩高など)、幅径 (頬骨弓幅、最小前頭幅、鼻幅など) は個体差が大きいように思われる。女性は全体に低顔傾向が強いようである。また、顔面平坦度示数についても個体差が認められる。

【上肢骨】

上肢骨については、性判定が比較的容易であった上腕骨についてのみ計測を行った。主要計測値を表7～8に示す。全体にかなり頑丈で、筋付着部の発達も良好であるが、縄文人や沖縄先史時代人ほどの頑丈さではない。

表7 上腕骨主要計測値（男性）

		①-1	⑤-2	⑤-3	⑧-1	⑪-3	⑫-1	⑫-2	N	M	S.D.
1 上腕骨最大幅	r	317			292	297			3	302.0	13.23
	l	315			288	294			3	299.0	14.18
2 上腕骨全長	r	312			287	295			3	298.0	12.77
	l	310			283	290			3	294.3	14.01
5 中央最大径	r	25		22	21	23		20	5	22.2	1.92
	l	24			20	23		21	4	22.0	1.83
6 中央最小径	r	16		14	16	14		16	5	15.2	1.10
	l	16			15	14		16	4	15.3	0.96
7 骨体最小周	r	64	69	60	59	60	72	60	7	63.4	5.16
	l	61		60	57	61		60	5	59.8	1.64
6/5 骨体断面示数	r	64.0		63.6	76.2	60.9		80.0	5	68.9	8.55
	l	66.7			75.0	60.9		76.2	4	69.7	7.23
7/1 長厚示数	r	20.2			20.2	20.2			3	20.2	0.00
	l	19.4			19.8	20.7			3	20.0	0.67

(mm)

表8 上腕骨主要計測値（女性）

		②	②	④	⑤-1	⑥-2	⑥-3	⑨-1	⑨-2	⑪-2	N	M	S.D.
1 上腕骨最大幅	r				265	278		277	280		4	275.0	6.78
	l	275		260	263	281	284				5	272.6	10.69
2 上腕骨全長	r				262	272		273	276		4	270.8	6.08
	l	274		255	260	275	280				5	268.8	10.71
5 中央最大径	r	22	20	18	17	21	21	23	22	20	9	20.4	1.94
	l	22	21	19	17	21	20	23		19	8	20.3	1.91
6 中央最小径	r	16	12	14	13	17	14	15	15	14	9	14.4	1.51
	l	16	14	15	13	17	14	15		15	8	14.9	1.25
7 骨体最小周	r	60		50	47	58	56	61	61		7	56.1	5.58
	l	58	54	52	47	57	55	60		54	8	54.6	4.00
6/5 骨体断面示数	r	72.7	60.0	77.8	76.5	81.0	66.7	65.2	68.2	70.0	9	70.9	6.72
	l	72.7	66.7	78.9	76.5	81.0	70.0	65.2		78.9	8	73.7	5.99
7/1 長厚示数	r				17.7	20.9		22	21.8		4	20.6	1.99
	l	21.1		20	17.9	20.3	19.4				5	19.7	1.20

(mm)

表9 大腿骨主要計測値 (男性)

		①-1	②	⑤-2	⑤-3	⑥-1	⑧-1	⑧-2	⑨-2	⑨-4	⑪-1	⑫-1	⑫-3	⑫-4	N	M	S.D.
1 最大長	r					414			399						2	406.5	
	l					415	397		399	387					4	399.5	11.59
2 自然位全長	r					410			396						2	403.0	
	l					413	393		397	383					4	396.5	12.48
6 骨体中央矢状径	r				26	26	23		26		30	27		30	7	26.9	2.48
	l		25	27	26	26	23	25	25	25	28		25		10	25.5	1.35
7 骨体中央横径	r				24	27	22		26		27	29		26	7	25.9	2.27
	l		25	27	24	26	22	27	26	26	27		25		10	25.5	1.58
8 骨体中央周	r				80	83	73		81		90	92		88	7	83.9	6.62
	l		79	87	80	83	73	85	80	81	88		80		10	81.6	4.38
9 骨体上横径	r	32		32	27	30	28		30		31	36		29	9	30.6	2.65
	l		30	33	28	30	29		30	31	33	35	32		10	31.1	2.13
10 骨体上矢状径	r	22		23	22	24	20		24		25	26		24	9	23.3	1.80
	l		22	22	22	24	20		23	22	25	25	23		10	22.8	1.55
8/2 長厚示数	r					20.2			20.5						2	20.4	
	l					20.1	18.6		20.2	21.1					4	20.0	1.04
6/7 骨体中央断面示数	r				108.3	96.3	104.5		100.0		111.1	93.1		115.4	7	104.1	8.09
	l		100.0	100.0	108.3	100.0	104.5	92.6	96.2	96.2	103.7		100.0	82.8	10	100.2	4.55
10/9 上骨体断面示数	r	68.8		71.9	81.5	80.0	71.4		80.0		80.6	72.2			9	76.6	5.37
	l		73.3	66.7	78.6	80.0	69.0		76.7	71.0	75.8	71.4	71.9		10	73.4	4.26

(mm)

表10 大腿骨主要計測値 (女性)

		④	⑤-1	⑥-2	⑨-1	⑨-3	⑪-2	⑫-2	⑫-5	N	M	S.D.
1 最大長	r		370	395		393		387		4	386.3	11.35
	l		371	395	386		370			4	380.5	12.12
2 自然位全長	r		367	391				385		3	381.0	12.49
	l		369	391			367			3	375.7	13.32
6 骨体中央矢状径	r	22	18	23	23	25	20	25	21	8	22.1	2.42
	l		19	22	23	25	22	25		6	22.7	2.25
7 骨体中央横径	r	25	25	24	28	26	23	24	22	8	24.6	1.85
	l		24	24	26	26	22	25		6	24.5	1.52
8 骨体中央周	r	74	68	75	82	79	70	78	69	8	74.4	5.10
	l		69	75	76	80	68	79		6	74.5	5.01
9 骨体上横径	r	29	31	30	33	31	28	27	27	8	29.5	2.14
	l	31	29	31	30	30	27			6	29.7	1.51
10 骨体上矢状径	r	21	17	22	23	20	19	23	21	8	20.8	2.05
	l	21	17	20	23	21	19			6	20.2	2.04
8/2 長厚示数	r		18.5	19.2				20.3		3	19.3	0.91
	l		18.7	19.2			18.5			3	18.8	0.36
6/7 骨体中央断面示数	r	88.0	72.0	95.8	82.1	96.2	87.0	104.2	95.5	8	90.1	10.02
	l		79.2	91.7	88.5	96.2	100.0	100.0		6	92.6	8.00
10/9 上骨体断面示数	r	72.4	54.8	73.3	69.7	64.5	67.9	85.2	77.8	8	70.7	9.03
	l	67.7	58.6	64.5	76.7	70.0	70.4			6	68.0	6.10

(mm)

【下肢骨】

下肢骨の計測値を表9～12に示す。下肢骨も全体的に頑丈で、筋付着部の発達が良好である。大腿骨の柱状性、脛骨の扁平性などの傾向は顕著には認められない。

表11 脛骨主要計測値（男性）

		②-1	②-2	⑤-2	⑤-3	⑥-1	⑧-1	⑧-2	⑨-2	N	M	S.D.
1 脛骨全長	r	318				343			332	3	331.0	12.53
	l	321				345				2	333.0	
1a 脛骨最大長	r	324				348			336	3	336.0	12.00
	l	326				348				2	337.0	
8a 栄養孔位最大径	r	29	30			31		34	31	5	31.0	1.87
	l		33		33	32	27	34	32	6	31.8	2.48
9a 栄養孔位横径	r	23	21			22		22	20	5	21.6	1.14
	l		21		19	21	22	22	20	6	20.8	1.17
10a 栄養孔位周	r	82	83		83	87		89	83	6	84.5	2.81
	l		85			84	79	89	84	5	84.2	3.56
10b 最小周	r	64		72		74	64		68	5	68.4	4.56
	l		71	72		72	64		69	5	69.6	3.36
9a/8a 栄養孔位断面示数	r	79.3	70			71		64.7	64.5	5	69.9	6.04
	l		63.6		57.6	65.6	81.5	64.7	62.5	6	65.9	8.13
10b/1 長厚示数	r	20.1				21.6			20.5	3	20.7	0.78
	l					20.9				1	20.9	

(mm)

表12 脛骨主要計測値（女性）

		②	④	⑤-1	⑥-2	⑪-2	N	M	S.D.
1 脛骨全長	r			295			1	295.0	
	l		304	300	328		3	310.7	15.14
1a 脛骨最大長	r			300			1	300.0	
	l		306	304	334		3	314.7	16.77
8a 栄養孔位最大径	r			23	29	26	3	26.0	3.00
	l	28	27	22	29	24	5	26.0	2.92
9a 栄養孔位横径	r			17	21	20	3	19.3	2.08
	l	22	21	15	22	19	5	19.8	2.95
10a 栄養孔位周	r			65	81	71	3	72.3	8.08
	l	79	78	63	80	69	5	73.8	7.46
10b 最小周	r			53	63	61	3	59.0	5.29
	l	64	62	54	61		4	60.3	4.35
9a/8a 栄養孔位断面示数	r			73.9	72.4	76.9	3	74.4	2.29
	l	78.6	77.8	68.2	75.9	79.2	5	75.9	4.50
10b/1 長厚示数	r			18.0			1	18.0	
	l		20.4	18.0	18.6		3	19.0	1.25

(mm)

【身長 の 推定】

大腿骨の最大長からピアソンの式を用いて求めた推定身長を表6に示す。男性が156.4cm、女性が147.5cmで、全体的に身長は低かったようである。周辺の例では、石垣市蔵元跡のグスク時代と思われる男性人骨で160cm前後の身長が推定され、同じ波照間島の大泊浜遺跡人骨（12～13世紀）についても、160cm程度の身長であったことが報告されているので、これらに比べるとかなり低身長である。

4) 周辺集団との比較

砂丘で発見された毛原人骨が一般的に言われるように、外来者なのかどうかを骨の形態から推定することは大変困難なことであるが、とりあえず毛原人骨の特徴を知るために、男性の頭蓋計測値を他の集団と比較してみた（図7）。比較に使った集団は、津雲縄文人¹⁾、金隈弥生人²⁾、アイヌ³⁾、沖縄先史時代人⁴⁾、沖縄近現代人⁵⁾である。また、先島地方で形質の分かる最も古い資料として、波照間島大泊浜遺跡の2号人骨⁶⁾と石垣市蔵元跡遺跡の1号人骨⁷⁾についても、少数の計測項目についてはあるが比較を行った。

図7は畿内現代人⁸⁾の計測値を基準にして、基準値からどのくらい違っているかを標準偏差単位で示した偏差グラフである。沖縄先史時代人は頭蓋最大長が小さく、最大幅が大きい（短頭）ことと、高径が小さい点の特徴である。全体にマイナス側に偏れており、サイズが小さいことが分かる。近現代人は頭蓋最大長が大きくなって、頭形が少し長くなっている。また、顔面の高径が先史時代人に比べると高くなっている。また、全体に偏れが小さくなり、顔面の高径が低い点を除けば畿内の現代日本人に近くなっている。蔵元跡1号や大泊浜2号の計測値はプラス側に大きく偏れており、サイズが大きいことを示している。毛原人骨は短頭性や低顔・低眼窩傾向において沖縄先史時代人と共通した特徴を有すると言えるが、全体の偏れは小さくなっており、近現代人的でもある。地理的に近い波照間島大泊浜遺跡や石垣島蔵元跡遺跡の人骨がサイズや全体的な頑丈さにおいて特徴的であるのに比べるとやや異なる印象を受けるが、

表13 推定身長

	男性	女性
大泊浜人骨も蔵元跡人骨も一例のみの結果であるために、現時点での評価は難しい。	159.3	145.0
毛原人骨の計測値は日本人の変異の範囲に含まれていると考えて問題はなさそうであるし、特に外国人の特徴を示しているようにも思われないが、先島での比較資料が不十分な現状ではさらなる分析は困難である。	155.9	149.7
	156.3	147.7
毛原第一墓人骨の位置づけを行うためにも、今後の資料の追加を期待したい。	154.1	147.9
		149.3
		144.8
		148.1
	不明	147.5
		(cm)

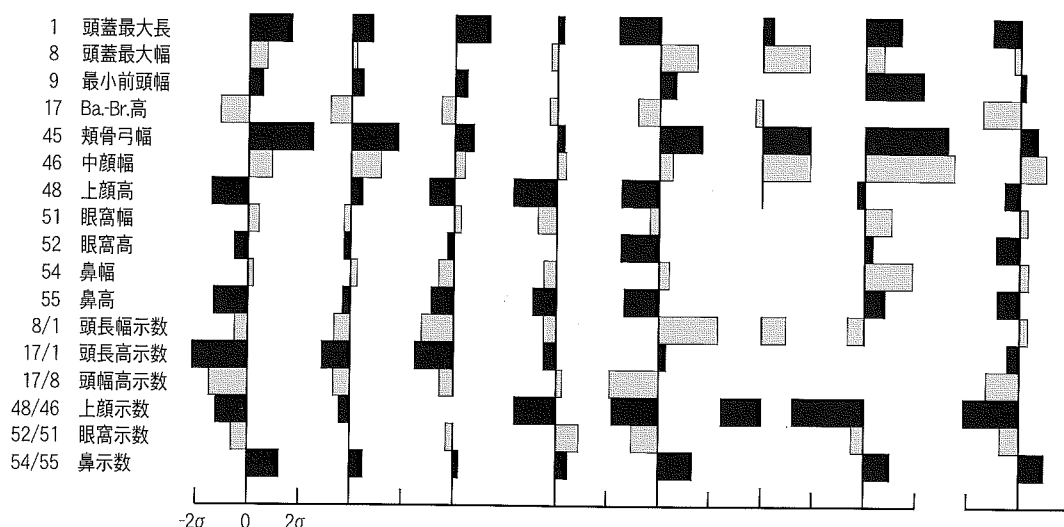


図7 男性頭蓋計測値（男性）の偏差による比較（幾内現代人基準）

4. おわりに

沖縄本島具志頭村で発見された港川人は縄文人の直接の祖先と位置づけられ、また、現在の沖縄のひとについても、「日本列島人の二重構造モデル」に代表されるように、大陸からの遺伝的影響をほとんど受けることがなかったため、北海道のアイヌとともに縄文人の形質を色濃く受け継いでいるという考えがほとんど一般的になろうとしている。しかし、沖縄の人骨研究の現状は、地域的にも時代的にも非常に限られた資料に基づくものであり、日本人の直接の祖先と考えられている港川人以降の形質の変化についてはほとんど分かっていない。さらに、最近の人骨研究では、沖縄のひとと北海道のアイヌは必ずしも近縁とはいえないのではないかという結果が報告されるなど、沖縄のひとの成り立ちについては、まだまだ残された課題が多いことが明らかになってきている。

筆者等は沖縄のひとの成り立ちを解明するため、各時代・各地域における人骨データの充実を図るべく調査を続けてきたが、その中で、沖縄の先史時代人とグスク時代以降の人びとの形質にかなりの違いがあることが分かってきた。これらの違いは日本における縄文と弥生以降の違いに匹敵するのではないかとと思われるほどである。グスク時代は、文化的だけではなく形質的にも大きな画期となっているのかも知れない。

また、先島地方が沖縄諸島周辺と同じ文化圏に入るのは、グスク時代以降になってからといわれており、形質的にも地域差があったことが予想される。しかしながら、先島地方における人骨の出土例は極端に少なく、現在の先島地方の人たちがいつ頃、どのようにして形成されたかについては、現在のところまったく分かっていないといっても過言ではな

い。

波照間島総合調査はこのような人骨研究の現状を開く第一歩となるものであり、特に、毛原人骨の重要性は今後ますます増大するものと思われる。

謝 辞

小稿を終えるに当たり、波照間島での人骨調査の機会を与えていただいた、沖縄県立博物館の皆さまに心から感謝いたします。

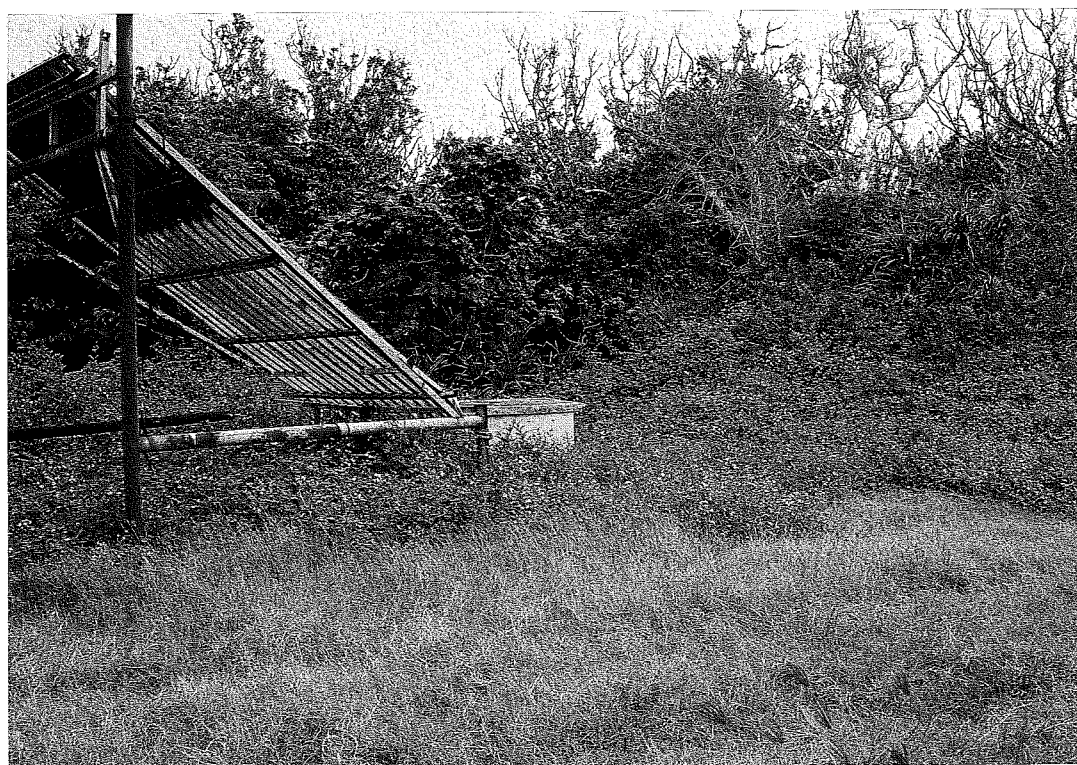
また、人骨調査に際しては、仲間土木、井上建設工業、大米建設の皆さま、そして波照間島の皆さまの温かいご協力とご理解があったことを記して、ここに心からの謝意を表します。

参考文献

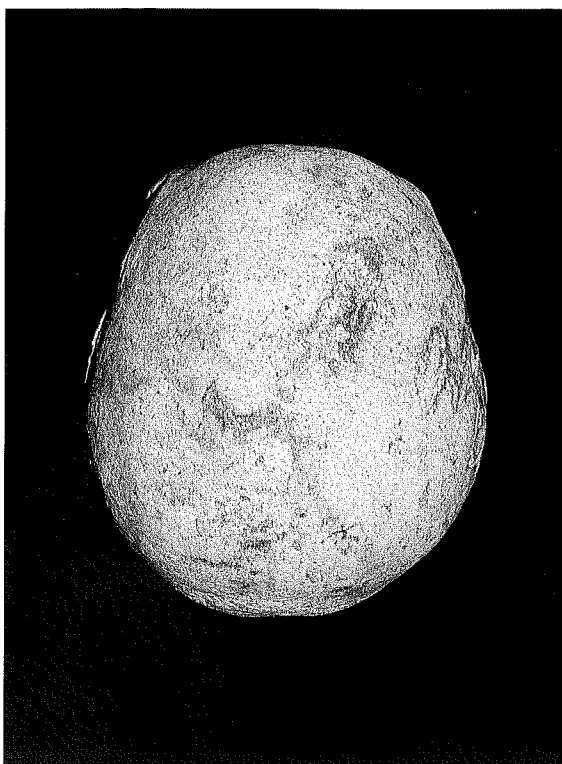
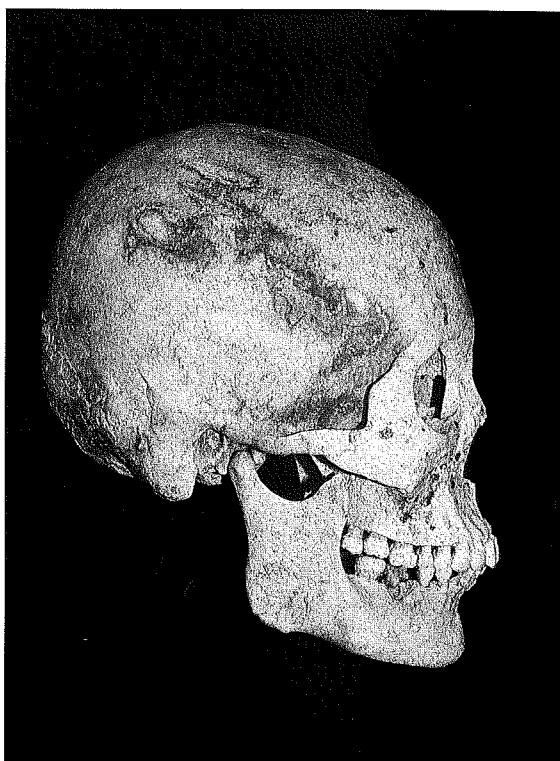
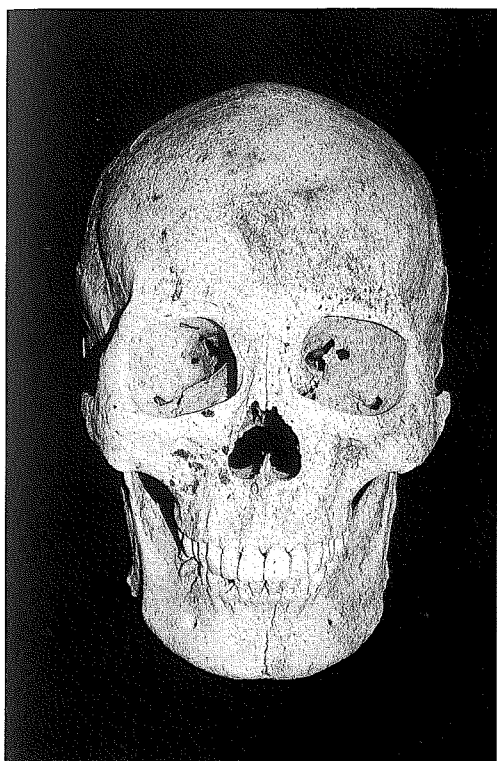
- 1) 清野謙次・宮本博人、1926：津雲貝塚人人骨の人類学的研究 第2部 頭蓋骨の研究、人類学雑誌、41 (3/4) .
- 2) 中橋孝博・土肥直美・永井昌文、1985：金隈遺跡出土の弥生時代人骨、福岡市埋蔵文化財調査報告書、第123集、史跡 金隈遺跡、福岡市教育委員会、pp.43-145.
- 3) Koganei, Y., 1893 : Beitrage zur physischen Anthropologie der Aino. 1. Untersuchungen am Skelet. Mitteil. med. Fak. Univ. Tokio, 2 : 1-249.
- 4) 土肥直美、未発表
- 5) 許 鴻梁、1948：琉球人頭骨の人類学的研究、国立台湾大学解剖学研究室論文集2：227-330.
- 6) 内藤芳篤、1986：人骨、沖縄県文化財調査報告書第74集「下田原貝塚・大泊浜貝塚」、pp.145.
- 7) 土肥直美・北條真子、1998：石垣島蔵元跡遺跡出土の人骨、石垣市教育委員会、(印刷中)
- 8) 宮本博人、1924：現代日本人骨の人類学的研究、第1部 頭蓋骨の研究、人類学雑誌 39 (10-12) .



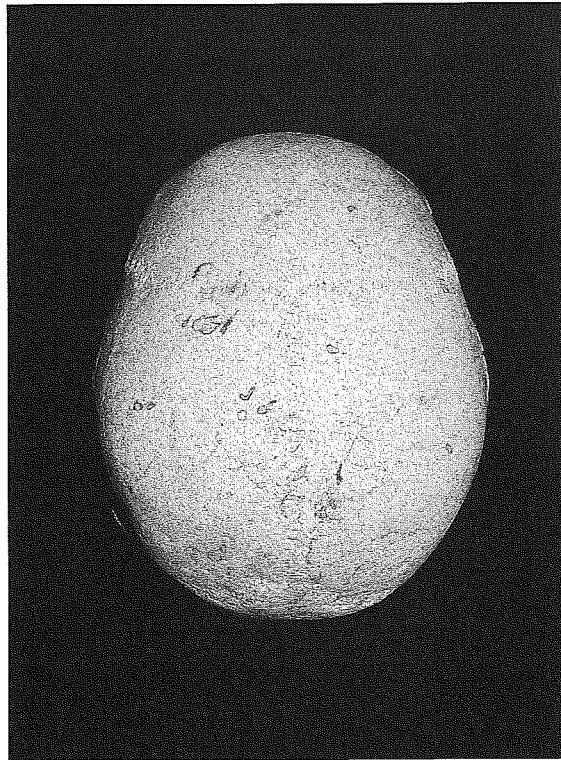
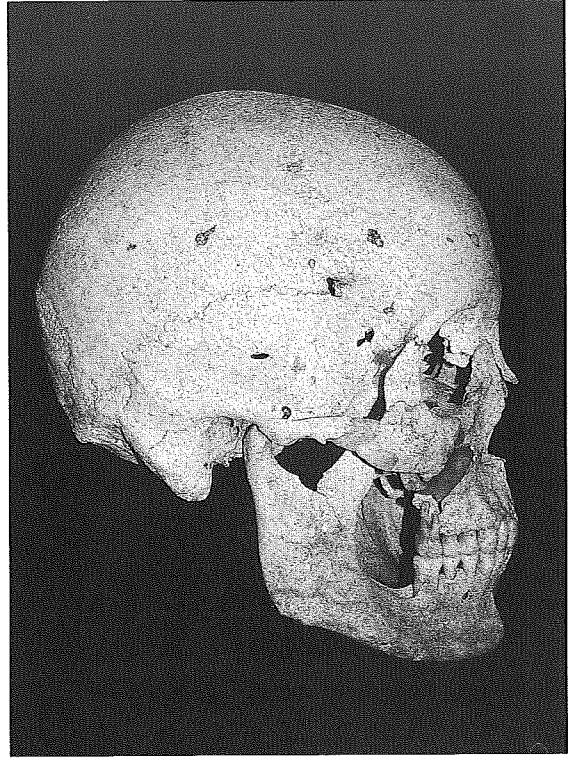
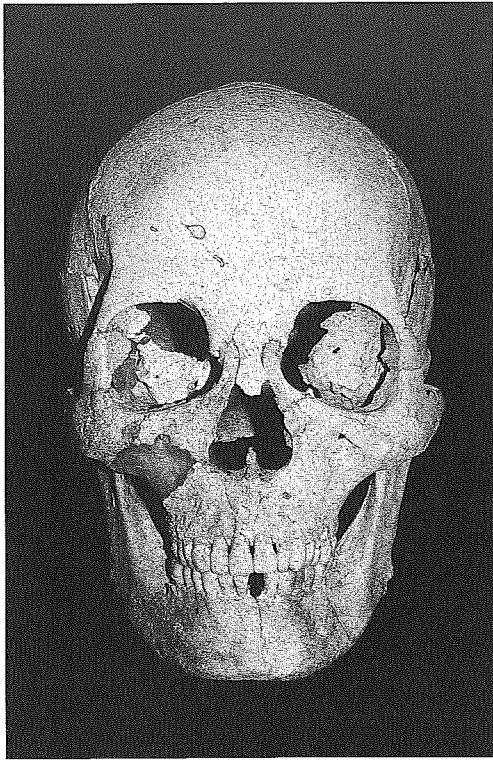
庸原第一墓



毛原第一墓



毛原第一墓 ⑪男性人骨



毛原第一墓 ①男性人骨